



国立大学法人豊橋技術科学大学

豊橋市役所

Press Release

2025年12月10日

## JST 共創の場形成支援プログラム(未来共創分野)に採択! ～地域の英知と先端技術の融合で、アグリビジネス共創拠点を創出～

### <概要>

この度、豊橋技術科学大学は科学技術振興機構(JST)の共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)「未来共創分野(フェーズ1)」(<https://www.jst.go.jp/pf/platform/>)に採択されました。本プロジェクトは、情報・知能工学系上原一将准教授がプロジェクトリーダー(PL)を務め、豊橋市(幹事自治体)、豊橋信用金庫(幹事機関)を中心とした、産学官金の強力な連携を軸に始動します。全国有数の農業地域が直面する課題へ、人間中心設計のアプローチを適用し、地域未来ビジョンの「人の知」と「先端技術」が融合するヴァイブレント社会すなわち活力ある社会の実現を目指します。

### <提案事業概要>

本学が位置する愛知県豊橋市は、平坦な地形と穏やかな気候、豊川用水の水資源を活かし、露地野菜から施設園芸まで多様な農業が展開される地域です。同市の総合計画では、「未来を担う人を育むまち」を目指すとしていますが、農業人口の減少や経営耕地の縮小が深刻化しており、食料の安定供給が危ぶまれています。こうした状況の中、豊橋市は「日本ーアグリテックフレンドリーなまち」という目標を掲げ、デジタル・トランスフォーメーションやAIを活用したアグリテック開発を支援し、農業を中心に地域活性化を図っています。一方で、アグリテック技術の先進的な開発が進む中、現場での実装がなかなか進まないという「技術先行・人後追い」の構造が課題として挙げられています。

この度、上原 PLを中心には、JST 共創の場形成支援プログラム「未来共創分野(フェーズ1)」に、「農業と先端技術の融合によるアグリビジネス共創拠点」の形成によって、「次世代型産地創成による「人の知」と「先端技術」が融合するヴァイブルト社会の実現」を提案し、採択されました。上原 PL の専門領域である「人間情報学」を、「技術先行・人後追い」の課題を抱えたアグリテック開発に導入し、人間中心設計を核とした次世代アグリテック技術の創出と社会実装を本拠点で目指します。これにより、農家から消費者、行政、企業まで多様な主体が見える「次世代型産地」を形成し、労働負担の軽減と作業の効率化、収益性の向上と経営リスクの低減、農業の魅力向上による新規就農者の増加といった成果を実現します。

### <若原昭浩学長からのメッセージ>

学長の若原昭浩です。この度、本学提案のプロジェクトが、JST の「共創の場形成支援プログラム」という国の重要な事業に採択されたことを、大変喜ばしく思います。

本事業の趣旨である地域大学を中心としたステークホルダーとの共創を通じた、自立的・持続可能な拠点形成は、高度な技術の開発や新たな技術の体系を創生する学問「技術科学」と産

学共創による実践を重視するという本学の使命と一致するものです。特に、本拠点では、若手研究者である上原 PL を中心とし、彼が専門とする「人間情報学」を核に、熟練者の「人の知」を先端技術に融合させる革新的なアプローチを採用しています。

大学として、この挑戦的な異分野融合研究へ総力を挙げて支援し、地域社会がさらにヴァイブランツな社会へと変貌を遂げるよう、最大限のコミットメントをもって推進していくことをお約束いたします。

#### ＜上原一将 PL からのメッセージ＞

本拠点の PL を務める上原一将です。一見遠く見える私の専門領域である「人間情報学」と、日本の未来を支える「地域農業」との新たな接点から、革新的な研究と社会実装に向けた取組ができるに、強い期待を抱いています。私自身、トップアスリートや音楽演奏家など、技能熟練者を対象とした脳神経基盤の理解に関する研究も行ってきました。この経験で培った「人の知」を形式化する技術こそが、熟練農家の高度な「暗黙知」を解明し、誰もが使えるアグリテックへと変換する鍵となります。この共創の場を通じて、地域に活力と持続可能な収益をもたらすヴァイブルト社会の実現を目指し、参画機関の皆様と共に、全力で取り組んで参ります。

#### ＜稻田浩三副 PL(豊橋市副市長)からのメッセージ＞

本拠点の副 PL を務めます豊橋市副市長の稻田浩三です。農業産出額が全国トップレベルである本市で、本地域の中核的研究開発拠点である豊橋技術科学大学が、その革新的な研究・技術を使ってアグリテックの新たな可能性を切り拓く挑戦的な本プロジェクトに大変期待しております。

本市も幹事自治体として主体的に参加することで、人間中心のアグリテックの社会実装を後押しし、本市を始め地域産業の更なる発展に向けて取り組んで参ります。

#### ＜宮川直樹副 PL(豊橋信用金庫専務理事)からのメッセージ＞

豊橋信用金庫の宮川直樹です。本拠点の副 PL を務めます。地域金融機関である当金庫が担う最大の役割は、研究室で生まれた革新的な技術を、単なる一時的な成果ではなく、地域社会の揺るぎない財産として根付かせ、次世代へと活力を継承していくための確かな事業基盤を築くことです。これまでの地域産業支援で培ったノウハウを活用し、「夢を預かる、金融機関。」の立場から、技術と地域、そしてさらなるヴァイブルト社会の実現への架け橋となるよう、この新しいチャレンジへ貢献して参ります。

#### ＜磯山侑里副 PL(特任助教)からのメッセージ＞

拠点の副 PL を務めます先端農業・バイオリサーチセンターの磯山侑里です。これまで、最先端植物工場マネージャー育成プログラムや IT 食農先導士養成プログラムなどの地域農業人材育成に携わって参りました。これらの経験は、本事業の最重要課題である「アグリイノベーションリーダー」の育成への基盤となります。私たちの使命は、単なる技術者や農家を育てることに留まりませ

ん。ヴァイブレント社会の実現に不可欠な、「人の知」と「先端技術」を融合させる地域農業の未来を担うリーダーの育成を目指します。未来のアグリビジネスを創り出す、リーダーたちの躍動にぜひご期待ください。

### <今後の展望>

本拠点は、本日 12 月 10 日よりプロジェクトを始動させます。拠点メンバーを中心とした最先端の研究開発と、豊橋市、豊橋信用金庫をはじめとする全参画機関との強固な产学官金連携体制の構築を両輪で推進し、東三河地域を起点とした「アグリビジネス共創拠点」の確立を通じて、農業に関わる方々のご協力を賜りながら「人の知」と「先端技術」が融合するヴァイブレント社会の実現に向けて歩み始めます。今後、本拠点の活動と研究開発成果を発信する予定ですので、ご注目いただけますと幸いです。

### <拠点メンバー>

PL: 上原 一将(情報・知能工学系准教授)

副 PL: 稲田 浩三(豊橋市副市長)

副 PL: 宮川 直樹(豊橋信用金庫専務理事)

副 PL: 磯山 侑里(先端農業・バイオリサーチセンター特任助教)

拠点設置責任者: 滝川 浩史(特命理事・副学長)

研究開発課題リーダー:

高山 弘太郎(機械工学系教授)、高橋 淳二(機械工学系准教授)、野田 俊彦(次世代半導体・センサ科学研究所准教授)、田村 秀希(情報・知能工学系助教)

### <参画機関>

#### ○教育機関

愛知大学、愛媛大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、豊橋創造大学、沼津工業高等専門学校、広島大学、和歌山工業高等専門学校

#### ○企業等(地方自治体含)

豊橋信用金庫(幹事機関)、豊橋市(幹事自治体)、蒲郡市、新城市、田原市、豊川市、豊橋商工会議所、豊橋農業協同組合、イノチオアグリ株式会社、イノチオみらい株式会社、株式会社エムスクエア・ラボ、カゴメアグリフレッシュ株式会社、輝翠株式会社、株式会社サイエンス・クリエイト、サーラ不動産株式会社、株式会社シンギュレイト、株式会社大仙、東朋テクノロジー株式会社、トヨタネ株式会社、浜名エンジニアリング株式会社、株式会社ファームシップ、株式会社道の駅とはし

## <公募事業概要>

事業名：共創の場形成支援プログラム「未来共創分野(フェーズ1)」

趣 旨：

大学等のうち地域大学等を中心とし、若手研究者を PL とするチームによって、ステークホルダーとの議論等を通じて地域の社会課題を見極め、当該社会課題の解決に寄与するグローバル水準の研究成果の創出と将来の自立的・持続的な産学官共創拠点の形成を目指す

研究費：3.7 千万円／年度

期 間：2 年度

※ステージゲート審査を通過することで、最長 5 年度(2 億円／年度)のフェーズ2へ移行することができる（合計 7 年度間、委託研究費総額最大 10 億 7 千 4 百万円）



### 【問い合わせ先】

(採択に関すること)

豊橋技術科学大学 経営企画課 経営企画係

TEL:0532-44-6513 FAX:0532-44-6950

Email : [keiei-kikaku@office.tut.ac.jp](mailto:keiei-kikaku@office.tut.ac.jp)

(報道に関すること)

豊橋技術科学大学 広報・地域連携室 広報係

TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6568

Email : [kouho@office.tut.ac.jp](mailto:kouho@office.tut.ac.jp)

## 拠点名称：農業と先端技術の融合によるアグリビジネス共創拠点

代表機関	豊橋技術科学大学	プロジェクトリーダー	上原 一将 豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 准教授
幹事自治体	豊橋市	幹事機関	豊橋信用金庫
参画機関	愛知大学、愛媛大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、豊橋創造大学、沼津工業高等専門学校、広島大学、和歌山工業高等専門学校 蒲郡市、新城市、田原市、豊川市、豊橋商工会議所、豊橋農業協同組合、イノチオアグリ(株)、イノチオみらい(株)、(株)エムスクエア・ラボ、カゴメアグリフレッシュ(株)、輝翠(株)、(株)サイエンス・クリエイト、サーラ不動産(株)、(株)シンギュレイト、(株)大仙、東朋テクノロジー(株)、トヨタネ(株)、浜名エンジニアリング(株)、(株)ファームシップ、(株)道の駅よはし		

## プロジェクトの概要

全国有数の農産地である豊橋を含む東三河地域は、人口減少と高齢化による就農者不足から、食料安全保障の崩壊に直面する可能性がある。この構造的な地域課題の解決に向け、学際的な研究者が集う本学は地域を中心とした产学官金のステークホルダーと密接に連携し、「人間情報学」のエッセンスを農業工学に加える。これにより、「人の知」と「トップレベルの先端技術」を融合させた次世代アグリテックを開発・展開し、高効率で安心・安全な次世代型産地創成を目指す。

農業と産業が高いレベルで共存する東三河地域の特性を生かし、国内外のオープンイノベーションを重視する姿勢を基に、新規就農者の増加、アグリビジネスの誘致・収益化を通じて、いきいきと働く人材を増やし、ヴァイブランツなわち活力ある社会を実現する。

